

岡豊キャンパスにおける 防災への取り組み

災害時における岡豊キャンパスの役割

岡豊キャンパスは SCU(航空機搬送臨時医療施設)及び高知県総合防災拠点に、附属病院は広域的な災害拠点病院に指定されており、災害時には災害医療の拠点であると同時に、災害救助関係者の参集拠点・活動拠点となります。外部の関係機関と連携した各種訓練も繰り返し実施しています。

なお、岡豊キャンパスは指定避難所ではなく、岡豊ふれあい館、北陵中学校、岡豊高校などが近隣の指定避難所となっています。



航空機による傷病者搬送を想定した
広域医療搬送訓練に参加する本院DMAT
※DMAT:
Disaster Medical Assistance Team
災害急性期に活動できる機動性を持った
トレーニングを受けた医療チーム

岡豊キャンパスの備え

上記の使命を果たすことを第一に、自家発電機や災害用の井戸などの防災設備整備、7日分の発電用燃料、被災時には3日分(節水が条件)の水を備蓄しています。多数傷病者受け入れに必要な簡易ベッドや医療材料などは、災害備蓄庫で集中的に備蓄・管理しています。医学部独自の整備・備蓄以外に、高知県の委託を受けた災害時用医薬品の備蓄も行っています。

建物の耐震化・新病棟について

岡豊キャンパス建物の耐震化工事は2014年12月で終了し、キャンパス内の建物は全て耐震建物または免震建物となっています。平成27年度から稼働を開始した附属病院新病棟(第二病棟)は免震建物で、屋上にはヘリポートが整備されており、災害時に大きな力を発揮することが期待されます。



第二病棟 北側より



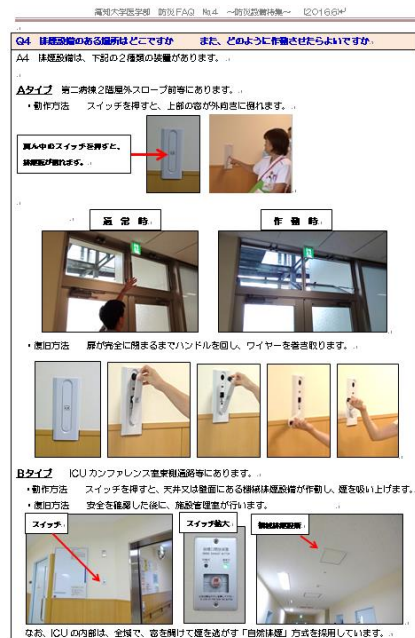
防災研修・教育について

シリーズで災害医療講演会や研修会を実施しています。教職員・学生以外にも、広く県内医療機関・行政関係者の参加も得て、県下の災害医療の強化に貢献しています。

学部内教育・広報の一環として、消火訓練・防災訓練を通じて寄せられた質問や意見にお答えする『高知大学医学部防災 FAQ』を作成・広報し、一過性のイベントにならないよう取り組んでいます。平成28年7月には、『防災設備特集号』を作成しました。

医学部・病院事務部では毎年10名の職員が、医学部内教育プログラム「防災コーディネータ養成講習」を受講しており、災害時のロジスティックのエキスパートとなることを目指しています。

※災害対応における「ロジスティック」…
連絡・調整・情報収集・調達等について計画・実行・管理すること、またその担当者。



防災FAQの例



キャンパス内の防災訓練について

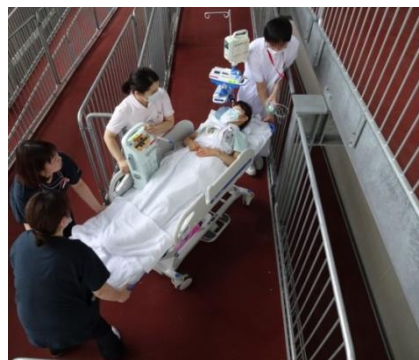
岡豊キャンパスでは消火訓練・避難誘導訓練のほか、地震を想定した防災訓練を実施しています。その中で、近隣からの傷病者受入れを想定したトリアージ訓練にも取り組んでいます。

「災害対応にはロジスティックが重要」との観点から、事務職員対象に情報伝達訓練も実施しています。



災害対策本部訓練

附属病院第二病棟には避難用屋外スロープが設置されており、このスロープを使った避難訓練も行っています。全病棟から参加できるよう、一週間の期間を設け、屋内消火栓や排煙盤等消火・防災設備の操作方法を学ぶと共に、ストレッチャーや車椅子での患者避難訓練を行っています。この訓練には医師、看護師だけでなく、病院長、看護部長を始めとする管理職や、薬剤師、臨床工学技士等のコメディカル、病棟クランク等も参加しています



屋外スロープ避難訓練

学生対象訓練としては、東日本大震災の教訓を踏まえ、人的被害を最小限度に抑えるため、発生し得る事項に基づくシナリオにより、教員・事務職員も参加し、避難訓練や救助訓練、情報伝達訓練などを毎年実施しています。合言葉は『生存率100%!』です。



学生避難訓練

学生と職員が協働した取り組みについて

課外活動団体として承認された『災害医療研究会』の学生と職員が協働し、災害時を想定し、現行の災害対策マニュアルに従い、備蓄非常食を用いて『夜間防災キャンプ』や怪我人を想定した搬送訓練、救急法訓練を実施しています。



災害医療研究会活動



怪我人を想定した訓練
(救護・搬送)